

中小自治体の持続と上下水道

世界有数の水準を保持し、必要な多くの三井不動産とし
て機能する日本の上下水道。しかし、少子高齢化やデフレの
長期化などから、先行きに対する懸念がぬぐえない。そこで、
長年、地方経済を見つめてきた真柄秀明・東京商工リサーチ
相談役に、経済人の視点から中小規模自治体の持続と上下水
道の役割をめぐって多角的な示唆を願い、その第2弾として
手取川扇状地の豊富で良質な地下水を活かし、地域の発展に
取り組む石川県能美（のみ）市を歩いていただいた。

3回合にして

3町が合併して
豊富な雪をいただいた白山の
雪が、この町に運ばれて、
雪舟の「白山」が作られた。
また、日本海に面した6
町が合併して誕生した。

豊富な雪をいかない日本山の
川の南岸沿いに15キロほど、山
岳に向けて市域が展開する。
世界的には九谷焼の産地とし
ても知られ、日本のみならずア
ジア・太平洋の水フォーラム会
長も務める森喜朗元総理、大リ
ーガーの松井秀喜を輩出。人口
は4万9720人（今年3月1
日現在）。少年野球、高校野球
が盛んな証左といえようか、夏
の全国高等学校野球大会の大会
能美市は国の地方分権推進策に
よる平成の大合併に伴い、平成
（2005）年2月に根上町、

北陸の元気印 水の能美市を訪ねて

《连载第二弹①》真柄秀明・東京商人のソード相談役



臨むと、手前に深井戸井屋が
中性件もと設し後顧島

地理的可能性力潛在

場合が多い。羽田から小松
には水平飛行をする間も無い
（一時間程度）で着く。時間
でいえばもはや首都圏とい
ても過言ではない。また能
市と東名阪の3大都市圏との
道による時間的距離はそれぞ
れ時間分離（金沢～東京は平
成20年の北陸新幹線完成後）。
のような位置取りにある自治
は太平洋側でも限られよう。
自治体
存在感
と地域
マネジ
が、講
は長春
訪問門
を重視
一を多
そのま

のケーブルも多い日本各地の
市に比べ、むしろ「今後の
感が高まる可能性の高い街
域」がこの能美市といえる。
問は二度目となる。一度目
は企業を参考としたリスク
メントの講演であった
講演前後にモノづくりの現
実感しようと市内のメーカー
多く訪ねた。

が並んで、中国東北、朝鮮半島、ロシア極東等、國際政情問題も複雑にはらむが、同時に今より潜在的成長力が魅力的な日本に直線で最短の海路を切って、日本海物流のハブ港による可能性を秘める金沢港にこそ、

で今回は、企業集積の実力各企業との連携の努力に大いに関心を持ったもの今回の訪問では、その繁文えるもののが何であるか、クリアに腑に落ちたようふする。

23. **きょく**と近く、地理的条件と云ふ。また、地理的に近いこと。

その原動力について述べて

(七〇六)

中小自治体の持続と上下水道

9月13日8面より

当たりの受賞企業数日本一となつた存在がある。

大手も地場も

能美市には、取材時点で、加

具体的には、東振精機（ベアリング組込用ローラー、オン

ミカル＆インフオメーションデ

バイス（ラックスリジット基

盤）、日本ガイシ石川工場（自

動車排ガス浄化用セラミック

ボリウレタンフィルム）、清峰

堂（九谷和ガラス）、羽田（超

扁平糸生地による婦人服一貫製

ヤパンディスプレイ能美工場

（中小型液晶パネル）等の世界

的な大メーカーに関連する企業

が進出している。

それだけでも瞠目に倣するの

だが、地場にも個性的で魅力あ

る中、企業が数多く存在する。

順不同で知り得る限り紹介する

ならば、まずは地場大手とされ

ながらも世界的な繊維、素材メ

リカーである小松精練。

さらには、中小企業主催の能

元気なモノづくり中小企業30

0社のうち8社を占めて、人口

多くのプラス

総務省の各種統計では人口10

万人未満が小都市とされてい

る。紛う事なき小都市である能

美市の規模でこれだけバリエ

ーションに富んだ優良企業が多数

収に泣いたが、同市は6・9%の減収と近隣自治体の最大15・8%の減収に比べて小幅にとどまった。その要因は法人市民税の振幅にあり、同市では22年の

存在するケースは珍しい。

これら企業の存在、活動は能美市の運営に多くのプラス効果をもたらしており、統計データで確認できる。

人口動態の5年比較では能美市が4万7207人（平成17年）→4万8688人（平成22年）、伸び率3・1%。近隣自治体の

伸び率は一貫して22年には一

軒、大幅な回復を見せている。

なぜかと言えば、進出企業の

数が多いことと業種が複数に及

んでいることなどから、景気の

変動に強い体质となっている点

が挙げられる。企業経営のリス

ト他の条件で優位に立つとも

思える隣接自治体に比べて、大

手の企業進出が活発で地場の毛

ノづくり企業が栄えるのか。今

度普及率は99・7%に達している。

水源は地下60～80mから

汲み上げる合計13本に上る

深井戸である。清浄な地下

水であるため、浄水場が塩

素滅菌のみで最初から設備

投資の負担が軽減されている。水

道が家庭や事業所に届くまでには

別化の要因となっている最大と

トレンドの波に大きく翻弄され

ないよう、多業種の顧客向けの

サービスを展開することが重要

とされるが、まさしくそれが実

現できている。その成果を示す

ように、能美市は3町合併以来、

の市場を画す手取川によつて支

えられている。手取川は霧峰白

川の扇状地が肩代わりしている。

まさに自然の恵みであり、この

河川で下流部は扇状地を形成

する。

なぜ、立地、主要物流インフ

ラに特別大きな差異がなく、む

ろは統合され、5万人弱に1日平均

で2万立方㍍を配つているとい

う。このほかに湧き水を水源とし

て100人弱に給水する山間部の

簡易水道があり、これを含めて水

道普及率は99・7%に達している。

水源は地下60～80mから

汲み上げる合計13本に上る

深井戸である。清浄な地下

水であるため、浄水場が塩

素滅菌のみで最初から設備

投資の負担が軽減されている。水

道が家庭や事業所に届くまでには

別化の要因となっている最大と

トレンドの波に大きく翻弄され

ないよう、多業種の顧客向けの

サービスを展開することが重要

とされるが、まさしくそれが実

現できている。その成果を示す

ように、能美市は3町合併以来、

の市場を画す手取川によつて支

えられている。手取川は霧峰白

川の扇状地が肩代わりしている。

まさに自然の恵みであり、この

河川で下流部は扇状地を形成

する。

水インフラと言えば、まずは水

道である。合併前の旧3町は互い

にほぼ同規模の上下水道事業を実施

してきたおり、能美市となつた今

の南岸側が能美市域に一致する。

1タス陸立つてゐると言えよう。

白山と手取川

水インフラの優位性

伸び率はマイナス0・6～1・

7%となっている。市税収入の

5年比較では、能美市が65億5

600万円（平成17年）→73億

2400万円（平成22年）、伸

び率11・7%。近隣自治体の伸

び率は1・9～6・0%。いず

る中、企業が数多く存在する。

企業である。

クマネジメントでは、特定顧客

への依存度を分散することや、

トレンドの波に大きく翻弄され

ないよう、多業種の顧客向けの

サービスを展開することが重要

とされるが、まさしくそれが実

現できている。その成果を示す

ように、能美市は3町合併以来、

の市場を画す手取川によつて支

えられている。手取川は霧峰白

川の扇状地が肩代わりしている。

まさに自然の恵みであり、この

河川で下流部は扇状地を形成

する。

水道の見込みは、能美市は3町合併以来、

(9月27日3面より)

中小自治体の持続と上下水道

落差を発電に

もう一点、今回の取材で意を強くした点がある。3・11の事故に端を発して原発の依存率や再稼働が問題視されている。その是非を今回この紙面で論じるつもりはないが、日本には活用されていない水の位置エネルギー（流水落下エネルギー）が豊富に存在する。

水力発電ではこれまで河川を利用した大規模発電ダムや揚水発電が主流で、最近になって、にわかにエネルギーの地産地消の観点から小水力発電が話題となってきた。今回の取材では小水力発電の資源として工業排水が利用できるのではないかという点に魅力を感じた。加賀東芝エレクトロニクスの立地する岩内工業団地の排水管改修工事の現場を見学する機会を得たが、この団地は手取川上流に向かって扇状地が狭まって

いく丘陵地に開かれ、工業用水道によつて供給された水は利用された後適切に除害処理され、埋設排水管を通じ落差50mを走つて放流される。この落下エネ

ルギーを発電に使えないものか。通常、揚水発電では夜間の余剰電力によつて水を揚げる

が、この団地ではすでに工業用

水道によつて代替されている。

従つて仮に発電するならば、夜間揚水が不要で、かなり有利な

状況にあると考えられる。

日本の国土はおむね平地が2割、丘陵・台地が2割、残る6割は山地である。工場の立地によっては排水路が急角度であるケースが多く落ちエネルギーは大きい。工業排水は1年を通じて安定的な流量を確保できるケースが多く、安定的な発電が想定される。多くの工場が集積

する政治は国民感情による批判を

資のプライオリティーとバランス、投資のベクトルは共通して

いる。

前回、北海道のせつな町の取

材では、過疎化の進む小規模自

治体の課題解決とインフラ投資

の重要性を書かせていただいた

が、今回の能美市の取材においても、課題の種類や段階の差は

あるが、本質的には国家、自治

体が果たすべき役割の基本、投

資の過度のアミ、国民はごく

短期の有利不利を判断の基準に

置き過ぎるあまりに、結果とし

て投資の方向性を誤つてはなら

ない。

後世に残すべきは、健全な財

政とともに、良質安価で競争力

のあるインフラである。良質の

循環する営みによって、財政の健

全化、福祉の充実、強く安全な

社会を支え、一見地道ではあるが、

その着実な正方向への回転を持

ることを、決して忘れないで欲

しい。

国家の形成に直結するものであ

ることを、決して忘れないで欲

しい。

ほどうで毎日、水面を見つめ

を感じて過ごしていくだけに、不思議な

縁を感じた取材行であった。

（おわり）

（おわり）